

## 2 生活安全における実践事例

### 生活安全①

実際の場面を振り返ることを通して、遊具を安全に使って遊ぶ必要感をもてるようにする学習事例

幼稚園 5 歳児（2年保育）

### 単元（題材）について

1 題材名 大型積木を使って安全に遊ぶためにはどうすればよいか、考えよう

2 安全教育上の目標

I-2 校内での安全

遊具を大切にし、正しい使い方が分かって安全に遊ぶことができるようにする。

3 教材化の視点

本園では発達の段階に合った異なる素材、大きさの積木を使って遊ぶ中で、遊具の安全な扱い方を身に付けられるようにしている。【表1】

5歳児クラスでは好きな遊びの際に大型の遊具を使って遊んでいる。初めて使う際には、一人で運ぶ大きさの積木、二人で運ぶ大きさの積木を確認し、運び方を全体で共有している。しかし、好きな遊びで使う中で、大きなサイズの積木を一人で運ぼうとしたり、積木を置く際に高い位置で手を離し、積木を床に落としてしまったりする姿が見られる。幼児が遊ぶ中でどのような場面で危険が起こるのかを体験しながら、何が危険であったかを振り返り、考えることで安全に遊ぶために必要な行動を学んでいくことができるようにする。

### 積木の扱い方の3年間の安全指導計画

#### 3歳児

・落としたり、ぶつかったりしてもけがをしにくいウレタン積木を使う。積木を使って遊ぶ中で、両手で持ち、一個ずつ運ぶことを指導する。教師が危険の無いよう場を整えながら、幼児が安全に遊ぶことができるようにする。

#### 4歳児

・ウレタン積木よりも一回り大きい木製の中型積木を使う。両手で持って運ぶことを指導する。幼児の発達の段階に合わせ、年度の後半で長方形の積木を使えるようにし長方形の積木は二人で運ぶことを指導する。「ここに乗ったらどうなるかな。」など自らが危険に気づき、考えて行動できるような言葉掛けをする。

#### 5歳児

・中型積木よりも一回り大きい木製の大型積木を使う。一人で持って運ぶ大きさの積木と二人で持って運ぶ大きさの積木がある。二人で運ぶ積木は幼児同士で声を掛け合って運ぶことができるよう指導をする。学年全体での指導の中で運び方を確認したり、遊びの中であった危険な場面を学年全体で共有し考える時間を設けたりする。また、危険を友達に知らせる姿を認める言葉を掛け、他者の安全にも意識を向けることができるように指導する。

### 指導の工夫


実際に経験した危険な場面を共有し、どのような状態が危険なのか幼児から考えを引き出し、学年全体で確認して安全に片付けることができるようにする。

指導事例（10分間）

1 ねらい

大型積木を安全に片付けるために必要なことが分かり、自分たちで安全に扱うことができるようにする。

2 指導の実際

○活動の流れ	◎教師の援助 ◇環境構成
<p>○ホールで集まり、大型積み木の片付け方について教師の話を聞く。</p> 	<p>◇学年全体の課題として意識できるように、大型積み木を使って遊んでいるホールで指導する。</p> <p>◎身近な出来事として捉えることができるように、以下の内容をその日のうちに学年全体に話す。 (大型積み木を床に置く時、A児が何も言わず手を放したことで、B児も手を放して落としてしまった。)</p>
<p>○大型積み木を置く際に、どのような危険があるか考える。</p>	<p>◎実際に、教師が大型積み木を落としそうになるところを見せ、考えやすくする。</p> <p>◎本人たちや他の友達の意見を聞かせることで、様々な意見が出てくるようにする。</p>
<p>○意見を発表した幼児が、安全な片付け方を実演する。</p> <p>○積み木の安全な片付け方について考える。</p>	<p>◎教師は、発言を受け止め、他の幼児が理解しやすいように言葉を補ったり、積み木を動かしたりする。</p> <p>◎積み木を安全に扱おうとする意識をもてるように、本時の学習をまとめ、学年全体の約束として共有できるようにする。</p>

幼児の学習状況

- 友達が実際に体験した話を聞いたことで、「勝手に放したらびっくりする。」「積み木を落としたら足にぶつかるかもしれない。」と、どんな危険があるか具体的に考えられるようになった。
- 大型積み木を安全に片付けるためにどうしたらよいか、持ち方や声の掛け方など具体的な方法を考えようとしていた。

幼児の変容

- その後の遊びでは、積み木を扱う際に床に近い所で手を放したり、友達と「先に、手放すね。」などと声を掛け合ったりして、片付けることができるようになった。